

授業改善の工夫	自分の思考過程や考えを可視化，顕在化させる活動の工夫
---------	----------------------------

小学校算数科 第4学年 わり算の筆算（2）－わる数が2けた－	
単元名	「わり算の筆算を考えよう」
単元のねらい	整数の除法の計算について理解し，その計算が確実にできるようにするとともに，それを適切に用いる能力を伸ばす。
単元の流れ	<p>「わり算の筆算を考えよう」（総時数 14時間）</p> <p>(1) 何十でわる計算（1時間）</p> <p>(2) 2けたの数でわる筆算(1)（6時間）</p> <p>(3) 2けたの数でわる筆算(2)（3時間）</p> <p>(4) わり算のせいしつ（2時間）</p> <p>(5) まとめ（2時間）</p> <p>※実際のプログラミングでは，フローチャートに表したものをコンピュータ言語に置き換えてプログラムを作成していく。毎時間の学習のまとめとして，学習した筆算の手順をフローチャート（簡略化したもの）に整理することは，コンピュータを使わないプログラミング体験ととらえることができる。</p>

本時のねらい（第13時）

学習内容の定着を確認し，理解を確実にする。
-----------------------

児童に示す本時のねらい

正確に計算するためにはどうすればよいか。
----------------------

学習過程

段階	学習内容・生徒の活動	時間 (分)	指導上の留意点等
導入	<p>1 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <math display="block">  \begin{array}{r}  29 \\  18 \overline{) 583} \\  \underline{36} \phantom{0} \\  223 \\  \underline{162} \\  61  \end{array}  </math> </div>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誤答を提示し，どこを修正すればよいか話し合い，本時のめあてにつなげる。</li> <li>○ 正しい答えやその求め方を，教師の「問い返し（根拠）」や，筆算のアルゴリズムを，複数の児童に「再生」させることで筆算の手順を確認し，正しく計算するために気を付けることを共有できるようにする。</li> <li>○ 児童に共有させたいこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・商はどこの位からたつか？</li> </ul> </li> </ul>

